

臨床工学技士による医療設備の保守管理はどこまで必要か？

～医療電気設備・医療ガス設備の安全確保～

望ましい施設管理と臨床工学技士の関係

～医療電気設備・医療ガス設備のメンテを考える～

小室 克夫 聖路加国際病院

医療機器等の安全性、信頼性の向上のためには、メーカー側の努力、医療施設内の体制の整備、中立機関による規制などそれぞれが積極的に関わっていくべきことがあると思われる。中でも医療施設内の体制整備には、とりわけ優秀な担当者の育成、定期点検など保守管理体制の整備、病院設備の改善などが重要となる。欧米諸国では体制が整えられていると聞くと、日本では医療施設内の医療機器の保守管理を、メーカー側の無料サービスに依存したり、場合によっては機器操作もメーカーに依頼するという極端なケースもあるという。

このような状況では医療機器の管理、保守、修理、安全教育などの重要性を認識することは難しいと思われる。

以上の認識に基づき、医療機器の安全面や保守管理の実態、またこれら医療機器の管理面に直接、間接的に関わっている臨床工学技士の実態につき、いくつかの病院でヒアリングやアンケート調査を行った。

今回、発表の機会を与えられたのでその調査の一部を紹介したい。尚、調査項目の主なものは次の通りである。

1. 病院種別による取り組みの相違
2. 臨床工学技士の雇用状況
3. 臨床工学技士の関わる業務について
  - (1) 医療機器管理
  - (2) 保守点検
  - (3) 機器修理
  - (4) 保守点検契約
  - (5) 臨床業務
  - (6) リスクマネジメントとの関わり
  - (7) 医療関係者への安全教育
  - (8) 予算
4. 施設管理業務との関わり
5. 医療機能評価審査項目上の位置づけ
6. 今後の課題